新川地区
まちづくりビジョン

令和３年 12 月

新川まちづくり協議会

はじめに

令和２年２月、毎年開催されている『さっぽろ雪まつり』に多くの観光客が札幌のまちを訪れ、春まであと少しという時期に札幌市に激震が走りました。今なお私たちの生活に大きな影響を与えている新型コロナウィルスの急激な感染拡大です。海外からの旅行者が初めて新型コロナを発症したと報道された時には、正直これほどまでに私たちの日常を一変させるような感染症だとは誰も思わなかったことと思います。その後は緊急事態宣言の発令や、さまざまな行事が中止となり、ステイホームを強いられるといった、終わりが見えない日々を送るようになってもうすぐ２年が経とうとしています。

ようやく、感染拡大も落ち着き、少しずつ日常に戻りつつあるものの、失われた２年を取り戻すのは、そう容易なものでないことは誰もが感じていることだと思います。

私たちが暮らす新川地区においても、感染の恐怖からご近所づきあいも控えるような状況では、十分な感染予防対策をした活動であっても地域全体で足並みをそろえて活動をするということが難しい状況となりました。リモートよりも、実際に人と触れ合った活動をしようと思えば、どこまで感染予防策を取ればいいのかと、実に悩ましい問題が起こります。それならいっそ今回は中止にしようということになり、役員の士気も下がります。

しかし、いつまでもこんな状況では、地域のコミュニティーが成り立たたなくなってしまいます。私たちはこの状況を打破すべく、まちづくりの再生を目指して地域の現状を把握して新川地区を『住みよいまち、ずっと住み続けたいまち』にするため、まちづくりセンターの自主運営化を通して、再始動しようと立ち上がりました。

役員だけがかかわるまちづくりではなく、地域のすべての人それぞれが、できることでまちづくりにかかわる活動ができるように、連絡調整を図る拠点として地域の手でまちづくりセンターを生まれ変わらせたいと思います。

自助　互助　共助　公助の連携で地域のすべての人が、活気あふれるまちで安心・安全に生き生きと暮らせる魅力的な新川になるよう、オール新川でチャレンジします。皆様にもこの趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いいたします。

新川まちづくり協議会
会長　佐久間　五十也

目 次

第１章 まちづくりビジョンとは ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

１．ビジョンの位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

２．ビジョンの策定経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第２章 新川地区の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

１．位置・周辺環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

２．人口構成の変化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

人口構成の変化（グラフ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

第３章 まちづくりの現状や課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

１．福祉・教育・・・・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

２．防犯・防災・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

３．環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

４．その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

第４章 まちの将来像と目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

第５章 目標の実現に向けた取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

ビジョン 1 子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちづくり・・・・・・15

ビジョン 2 安心・安全で災害に強いまちづくり ・・・・・・・・・・・・・ 15

ビジョン 3 きれいで魅力あるまちづくり ・・・・・・・・・・・・・・・・15

ビジョン 4 活気とうるおいのあるまちづくり ・・・・・・・・・・・・・・16

第６章 ビジョンの推進に向けて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

【参考資料】

新川まちづくり協議会構成団体一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

新川地区地図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

新川まちづくりセンター自主運営開始までの流れ・・・・・・・・・・・・・・・20

第１章まちづくりビジョンとは

１. ビジョンの位置付け

新川地区は、旧琴似町である琴似、新川、新琴似、屯田の各地区に屯田兵が入植し、開拓の鍬をふるったことに始まります。

あれから 130 年以上の時が経ち、先人の手により作られた新川（人口運河）の流れに沿って東西に 7.5km と長い範囲に住宅地、小・中・高校などの教育施設、商業施設が立地します。また、JR 新川駅も立地し、多くの人々が暮らす地区となりました。

新川地区の人口は約 27,700 人、世帯数は 13,700 世帯を超え、多くの人々の暮らしの拠点として成長してきました（令和 3 年 10 月 1 日現在)。20 年前には、人口約 27,300 人、世帯数約 10,800 世帯のうち老年人口の割合は 13.8％でしたが、現在は 29.3％に上昇しています。逆に年少人口の割合は 15.6％から 12.4％に減少し、少子高齢化の波は例外なく私たちのまち、新川地区にも押し寄せている状況です。

これらを背景に、新川地区のまちづくりの課題も顕在化しています。こうした中、今ある多くの資源を活用し、さらに新川地区に暮らす人・関わる人達が組織や立場、世代を超えて『連携・協力』しながら将来のありたい姿に向かってまちづくりに取り組んでいく必要性を見出しました。

そこで平成 28 年に『新川地区コミュニティーネットワーク会議』(以下 C ネット会議という）で議論された『新川まちづくりビジョン』を再度皆で練り直し、新川まちづくりセンターを自主運営化し、地域の活動拠点としてその中心に据えるべく、「この先もずっと住み続けたい新川地区」を具現化する『新川まちづくりビジョン』を改定しました。将来を見据えたまちづくり活動の指針とするものが『新川地区まちづくりビジョン』(以 下「ビジョン」という。）です。このビジョンには C ネット会議の構成団体が集まって話し合った結果を集約した内容を盛り込んでいます。 C ネット会議ではこのビジョンをふまえ、構成団体や地域の皆様と地域課題の解決に向け

て着実な一歩を進める町内会や関係団体の垣根を超えた『新川まちづくり協議会』（以下「協議会」という。）の設立が可決されました。また、住民や地域団体等でビジョンを共有し、変化の時代にあって、今後実施する事業は果断に見直しを図りながら、事業に応じて関係団体が連携協働して効果的に取り組んでまいります。

2．　ビジョンの策定経緯

ビジョンの策定にあたり、新川地区では新型コロナウィルス感染拡大が落ち着きをみせた時期を見計らって密を避け、新川さくら並木連合町内会の役員を中心に、3 回のワークショップを開催して原案の作成にあたりました。この際、平成 28 年に作成されたビジョンを参考に、令和 3 年版ビジョンの原案を作成し、2 回の C ネット会議で原案について検討し、このビジョンが承認、完成いたしました。

新川地区は新川さくら並木連合町内会(以下「連町」という)に加入する 11 の町内会のほかに、4 つの休会中や未加入の町内会、自治会があります。縦長の新川地区において連町加入の町内会であっても一堂に会して活動することが難しい一面は以前からありました。

また、単位町内会の中にも役員のなり手不足から、複数役員の掛け持ち、休部といった事態になり今後の円滑な活動に支障を来す可能性も出始めました。これは町内会役員に限らず、民生委員をはじめ関係諸団体の役員においても欠員や掛け持ちといった状況になり、このままでは地域の将来に光が差さないかもしれないと感じられるようになってしまいました。

このような状況に追い打ちをかけるように、令和 2 年 2 月からは新型コロナウィルスが猛威を振るい、ほとんどすべての町内会関連行事が中止になる中、孤独死や認知症が急速に悪化した高齢者の徘徊などが相次ぎ、貧困にあえぐ家庭も増え、まさに出口が見えない長いトンネルを走るような気分になった人も少なくありません。

このような状況で、いつかよくなるだろうと受け身で待つのではなく、自分たちの住む地域の問題はまず、自分たちで解決を試みよう。それでもできないときは行政に相談して協力してもらおうという考えのもと、町内会の壁を越え連帯して、助け合い地域の明るい未来のために協働することの重要性

が認識され始めました。

そこで注目されたのがまちづくりセンターの自主運営化です。直営のまちづくりセンターの職員では、地域の実情に合わせたきめ細やかな対応を持続的にすることは不可能に近く、安定的に継続した取り組みができません。地域のことを一番よく知る地域の住民が、地域の実情に応じたまちづくりセンターを運営して、「地域の事務局」「地域の相談や情報共有の窓口」として機能させることが急務であると考えました。

私たちは今回の取り組みを進めるにあたり、「無から一」を生み出したわけではありません。過去にも同じように自主運営化を目指してＣネット会議で策定、承認されたまちづくりビジョンを、バージョンアップさせ、先輩たちがかなえられなかった自主運営化を実現するべく、文字通り地域の問題を地域の手で解決に導くために独自に活動し、令和３年度版のビジョンを完成させることができました。

コロナ禍の中でこのように短時間でビジョン策定ができたのは、先輩たちが時間をかけ丁寧に策定してくれたビジョンがあったおかげだと、心から感謝しています。

今回、自主運営化するまちづくりセンターの受け皿となる『協議会』の設立の承認とビジョンの承認をいただきましたが、ここに至るまでの取り組みについて時系列で説明させていただきます。

① Ｃネット会議で提案するビジョンを作るために連町役員が中心となって

令和３年 10 月６日に第１回新川まちづくりセンター自主運営化推進委員会がワークショップを開催しました。

「福祉・教育」「環境」「防災・防犯」「その他」の キーワードを設定し、地域の良い点・悪い点・今現在の困りごとなど、「まずは地域の現状を知る」ことから始めました。ワークショップ参加者からは、自分の地域だけの問題ではなく地域全体の問題点があるという共通認識が生まれ、最初は不安や必要性を感じなかったまちづくりセンターの自主運営についても、やってみてもいいのではないかという意見も出ました。

② これらの浮き彫りになった問題点、課題をもとに「では、どのようにしてこれらの問題点や課題を改善・解決に導くか」を考える第 2 回新川まちづくりセンター自主運営推進委員会のワークショップを 10 月 27 日に開催し、平成 28 年に完成したビジョンも参考にアイディアを出し合いました。

③ 令和 3 年 11 月 4 日には第 1 回新川地区 C ネット会議を開催し、構成団体代表者の皆様に今回の自主運営化を目指した経緯とビジョン策定の途中経過を説明し、ご意見を頂戴いたしました。

この場でも、自主運営に関して質問、賛成の意見が出されましたが、会議の場で意見を出し尽くすことができないことから、各団体が提案を持ち帰り、協議して質問やご意見をアンケートに記入してお寄せいただくことといたしました。

　また、自主運営化を進めるか否かの最終判断は第 2 回の C ネット会議で採決を取ることを取り決めました。

後日、実際にいくつかの団体からご意見を頂戴し、これを加え次の推進委員会で、C ネット会議に提案するビジョンを決めることになりました。

④ 令和 3 年 11 月 18 日の第 3 回推進委員会においてＣネット会議の場で提案するビジョンの 4 つの柱が決まりました。

⑤ 令和 3 年 12 月 2 日第 2 回Ｃネット会議で新ビジョンと自主運営化の申請・受け皿となる協議会の設立が承認され、協議会の役員、規約も協議、承認されました。

役員については連町役員に偏らず、C ネット構成団体から広く人選ができ、満場一致での承認となりました。

次に、地域における合意形成に関して、新川地区は先にも記した通り役員が様々な団体の役員を掛け持ちする率が非常に高く、本来であれば臨時総会等で是非を問うことが必須ではありますが、臨時総会に臨む代議員の多くがすでに自主運営化の件に関して、他の所属団体から内容を周知されている状況で、それであれば役員だけでなく一人でも多くの地域の皆様に今回の件をお知らせすべく、協議会が自主運営化を目指していることに関するチラシをお配りし、広く地域のご意見を頂戴できるように、電話、Ｆａｘ、メール、ホームページからも意見をいただけるようにしました。

ホームページからは札幌市の公式ページの「まちセン」や「自主運営」についての説明ページを閲覧できるようにリンクを張り、閲覧者の検索の負担を減らす工夫をしました。

地域に配布したチラシの枚数は下記のとおりです

1　町内会加入世帯には回覧板で（約 750 枚）
2　町内会非加入世帯には全戸配布で（約 2，000 枚）
3　ホームページを作成しスマホやパソコンからも閲覧可能にしました

また、自主運営化が決定しましたら、再度地域の皆様にお知らせを配布する準備を進めております。ホームページやＳＮＳで活動の様子も配信予定です

地域からのご意見が 12/10 現在電話で 1 件とメールで 1 件寄せられています。

◎　『個人情報が記載されている証明書の取次業務を素人に任せるのはいかがなものか』
◎　『自分たちもできることを頑張って活動している。高齢化や役員のなり手不足は深刻だ。まちセンに期待している。私たちの活動の存続にもつながればうれしい。』という二つの意見が寄せられています。

これにより、ようやく新川まちづくりセンター自主運営化に向けた申請の準備が開始されました。令和 3 年 12 月 10 日現在、ご質問などが少しずつ寄せられております。地域の皆様に関心をもっていただけたものと思われます。
今後も寄せられたご意見を、まちづくりのビジョン実現への参考とさせていただきます。

※　参考資料として自主運営開始までの流れを図で示したものを作成しましたのでご覧ください。

第２章 新川地区の概要

１．位置・周辺環境

新川地区は、北区の西側に位置し、新川通りに沿う形で縦長な地区となっております。地区内には高速道路の IC や JR 新川駅があり、新川通を利用することで札幌中心部へのアクセスが良い地区となっています。交通の利便性が良く、小・中・高校 などの教育施設、商業施設の立地など生活しやすい環境となっています。

２．人口構成の変化

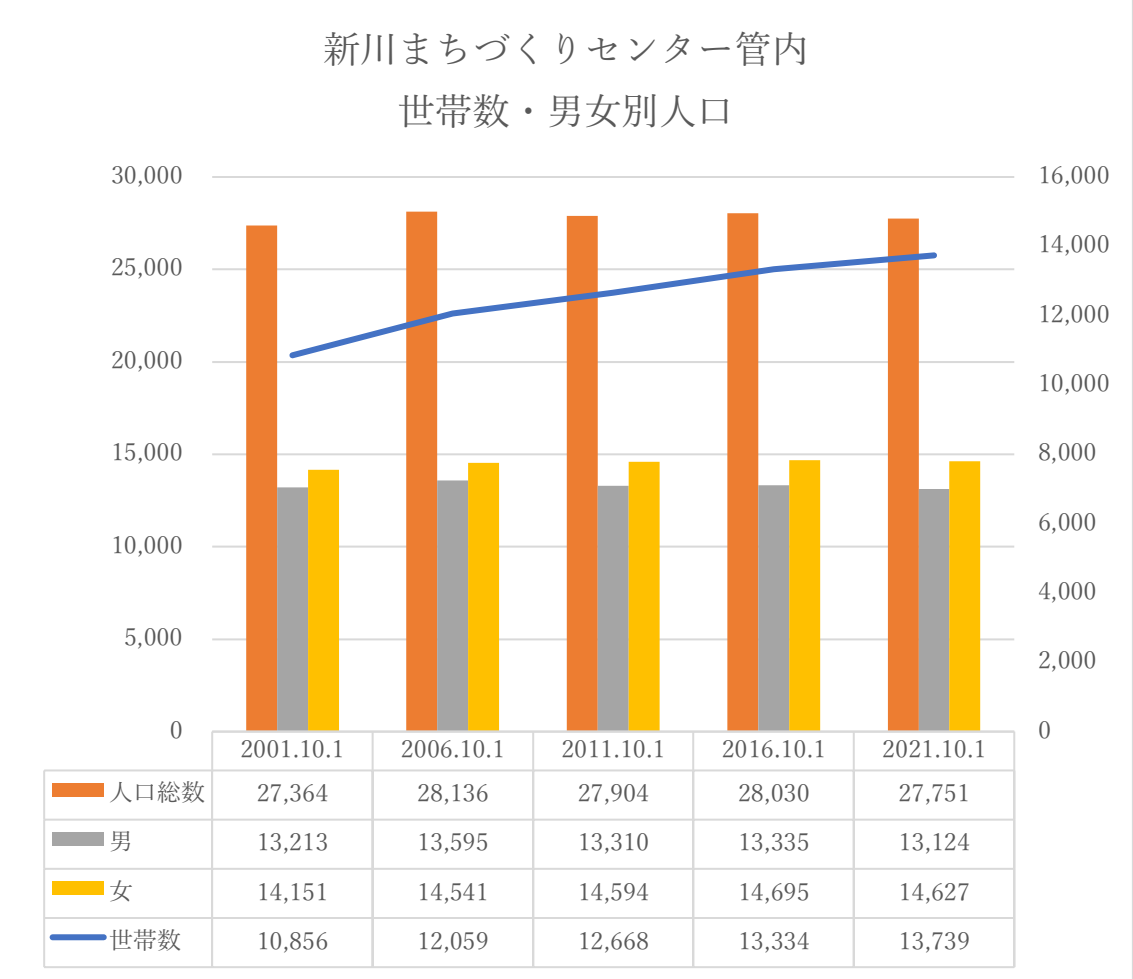
新川地区の世帯数は、平成 13 年度時点で 10,856 世帯となっています。令和 3 年度では 約 3,000 世帯増え 13,739 世帯となっています。しかし、人口はというと、20 年前の平成 13 年が 27,364 人に対し、令和 3 年は 27,751 人とわずか 400 人しか増えていません。

年少人口（0～14 歳）はこの 20 年間で約 3 ポイント減少とわずかに減少しています。

一方老年人口（65 歳以上）が約 15 ポイント以上も増加するなど、少子高齢化が一層進み地域活動や子育て環境などが変化しています。 また、生産年齢人口（15~64 歳）については、この 20 年間で約 12 ポイントも減少し地域の活動に積極的に参加、協力していただきたい年代の減少が痛手となり、将来にわたって担い手不足の問題は町内会存続の大きな障害となりつつあります。

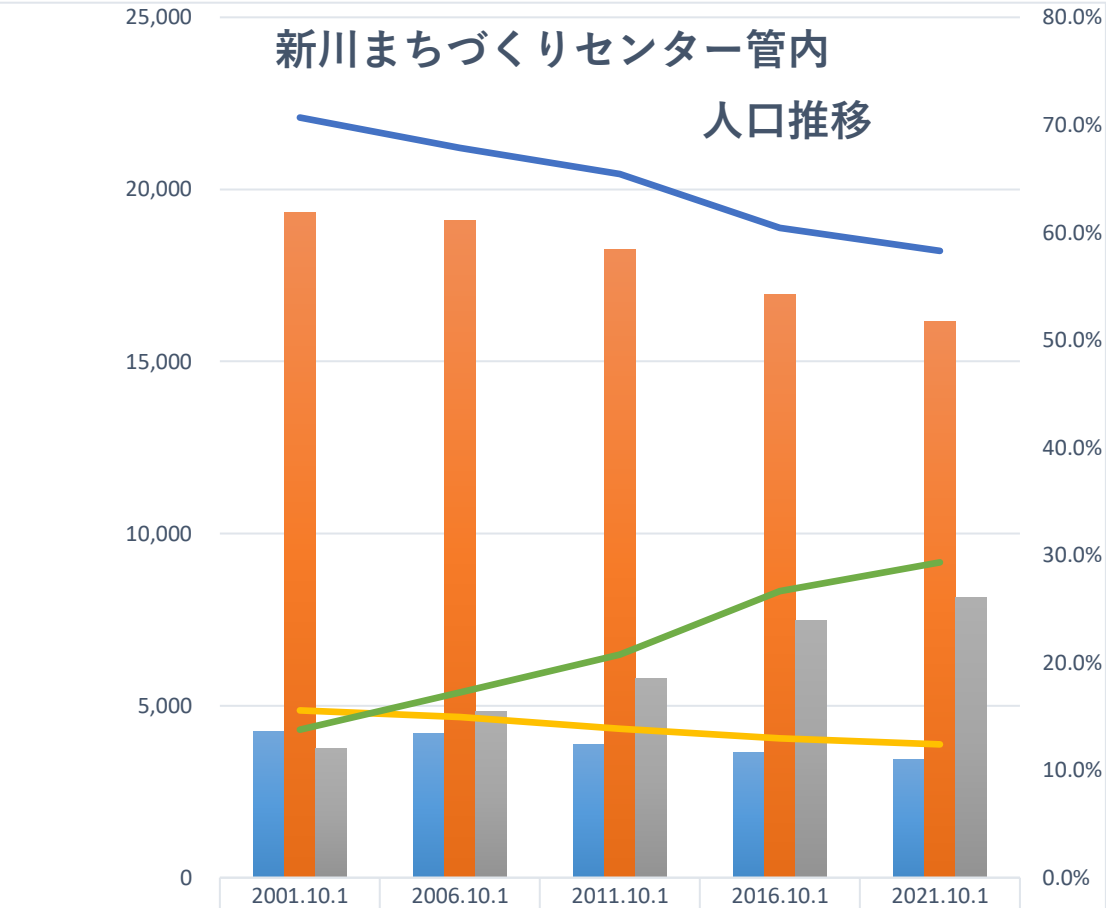
町内会役員の高齢化が進むことで、担い手不足から夏まつりや運動会などの地域の伝統行事が廃止・縮小し、新型コロナの影響で大人数が集まるイベントも開催できず、子どもたちにとっても、高齢者にとっても楽しい交流の機会が失われつつあります。 高齢者には健康で生きがいをもって、生き生きと活動する機会を増やし、子どもたちには遊びや就学環境の変化に対応した健やかに学び、遊べる環境づくりが重要になっています。このように人口構成の変化は、地域の活動に大きな影響をもたらす要因となります。

（人口の推移につきましては数値をもとにグラフを作成しましたので次頁をご参照ください）



	2001.10.1	2006.10.1	2011.10.1	2016.10.1	2021.10.1
人口総数	27,364	28,136	27,904	28,030	27,751
男	13,213	13,595	13,310	13,335	13,124
女	14,151	14,541	14,594	14,695	14,627
世帯数	10,856	12,059	12,668	13,334	13,739

⇑⇑⇑　2021.10.06　第１回
自主運営推進会議の様子



	2001.10.1	2006.10.1	2011.10.1	2016.10.1	2021.10.1
年少人口	4,257	4,198	3,864	3,630	3,440
生産年齢人口	19,341	19,096	18,254	16,938	16,174
老年人口	3,766	4,842	5,786	7,462	8,137
年少人口率	15.6%	14.9%	13.8%	13.0%	12.4%
生産年齢人口率	70.7%	67.9%	65.4%	60.4%	58.3%
老年人口率	13.8%	17.2%	20.7%	26.6%	29.3%

2021.11.04　第１回
新川地区Ｃネット
会議の様子　⇒⇒

① 福祉や教育に関して出された意見

子育て世代が集まる場所が欲しい
高齢者との密なる連絡が取りづらい
高齢者が気軽に集まる場所が欲しい
集会場のような気軽に立ち寄れる場所が欲しい
通学に危険な場所に信号機を設置してほしい
サロンに参加できない老人の対応に工夫が必要
高齢者・独居老人の増加、高齢化
子どもの減少、体験不足
町内会・子ども会等の役員のなり手不足
高齢者・独居高齢者の見守りが思うようにできない
民生委員が不足している・なり手がいない
高齢者・独居高齢者の見守り
高齢者の把握が難しくなっている
見守る側の高齢化
子ども達のよりどころ作り
子ども会の衰退・子ども向けの行事
地域の理解を深めるため学校へゲストティーチャー活用
地区会館で開催しているサークルや講座が少ない
親身になって話を聞いてくれる人や、場所が少ない
何をするにも高齢の役員が頑張って、若い人がいない
学生が演奏会などをするのはいいことだと思う

人が集まる場所の確保を望む声や、役員の高齢化、なり手不足を懸念する声が挙がっていました。また、見守り活動が思うようにできないもどかしさを感じている人も多いようです。

② 防災や防犯に関して出された意見

災害時の避難対策不足
避難場所（公共施設）がない
防災意識の向上・自主防災組織の機能化
防災資材の使い方がわからない
緊急時の高齢者対策
防犯・交通安全体制の整備・充実
防災・防犯に関して無関心
特殊詐欺被害が地域で発生・啓蒙活動が必要
防災対策の検討が必要（防災用具の準備）
災害時障がい者避難の手伝いが難しい
テント不足
防災広場の管理が負担大
災害の種別・季節に応じた訓練の実施
古い防災資材の入れ替えが必要・資材の充実が困難
深夜営業の大型店近くの公園に青少年が遅くまで集まる
空き家が多い
パトロールや特殊詐欺防止の啓発活動などありがたい
自分が小学生のころから同じ人が朝の見守りをしている

災害時の避難場所に関する不安や、備えに対する不安など行政に働きかけが必要な部分も浮き彫りになりました。空き家や公園等でのトラブルを未然に防ぐ対策も急務のようです。

③　環境に関して出された意見

町内の美化意識と活動
ごみステーション当番の除雪作業
町内会未加入者の利用
ごみ捨てルールの徹底
資源回収などの参加者不足
高齢化が進みごみ出しのルールがわからない
ごみステーションの根本的な改善を行った
町内清掃時、非会員の協力不足
ごみステーションに不法投棄が多い
ごみステーション機材の取り換え
庭木の処理・カラスの巣撤去など資力がない
ごみのポイ捨てが多い
子どもが遊べる公園が町内会に欲しい
公園にトイレがない・遊具不足
公園内の樹木が大きくなりすぎ
ごみステーションの機材助成額を引き上げてほしい
高齢者ごみの分別ができなくなっている
高速の IC や JR の駅があり利便性はよい
せっかくさくら並木があるのに活用できていない

ごみ問題が最重要課題となっています。町内会で設置、管理しているごみステーションの利用について検討が必要です。また、公園など公共施設の問題については行政に働きかけが必要です。

④　そのほか、WS の中で出された意見です。

若い人たちとの交流
役員の担い手不足・高齢化
女性役員が少ない
札幌市の仕事を町内会に投げすぎて負担が大きい
文化・スポーツの充実
若者が無関心・参加者の減少
集会にはお土産が必要
コロナ問題の解決が第一
文化祭の開催
町内会加入率低下
役員のなり手不足・仕事で十分な活動ができない
マンション居住者との交流
新川地区と JR 札幌駅直結バスが必要（市立病院経由）
地区内に図書の貸し出し場所がない
まちづくりセンターの場所が地区の中心にない
まちづくりセンターの場所がわかりづらい
新川は縦長なので全体で何かをするのが難しい
町内会加入率を上げたいが良い方法が見つからない

担い手不足をいかに改善するか、知恵を絞って解決に向かいたいと思います。また、工夫次第で解決できることもあるようなので、引き続き検討してまいります。

第４章　まちの将来像と目標

新川地区の現状や課題をふまえて、課題を集約しどのように解決に導くか、アイディアを出し合いました。

①　福祉・教育に関しては

・子どもたちにも積極的に行事に参加してもらい、世帯交流を図る
・子どもの居場所を作る（ミニ児童会館の開設など）
・子どもの活動に親も協力してもらう
・高齢者の買い物支援・移動支援の検討
・町内会活動にお誘いして、引きこもり防止対策
・高齢者の交流場所（サロンなど）の増設
・福まちを機能させて見守り、声がけ、相談相手になる

上記のように子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちを作ろうという意見でまとまりました。

②　防災・防犯に関しては

・小規模な防災研修の継続実施
・高齢者・障がい者誘導の計画とマニュアル作成
・高齢者・障がい者も参加する防災訓練の実施
・空き家周りの環境整備
・各町内会の防災活動を紹介する
・子ども避難場所。SOS 子どもの家の拡充・周知

上記のようにいざという時にちゃんと備えている、安全・安心で災害に強いまちを作ろうという内容がまとまりました。

③　環境に関して

・ゴミステーションの管理について、当番制の導入・行政への相談
・清掃活動の継続・充実
・さくら並木の活用方法を考えよう
・街並み（景観）づくりを考えよう

このように、一番の懸案事項はゴミステーション管理にかかわる内容となり、これに関しては、行政の協力も必要な部分であるとの見解で一致しました。

また、札幌市のみならず、全道、全国的にも取り上げられる機会が増えた『新川さくら並木』を活用し、地域の魅力発信と景観づくりも必要です。

④　その他

・町内会未加入世帯への加入促進の工夫が課題
・仕事をしていても、リタイヤ後でも、介護をしていても参加できる活動の充実
・役員組織の統廃合、女性役員の登用
・学生とタッグを組んでイベント開催
・目玉となるようなイベントの開催
・既存サークルの活動から新たな活動を模索する
・活動を披露する場の提供
・子育て世代のママたちが活躍できる場所の提供

上記のように多岐にわたる意見やアイディアが出されました。まちづくりは一部の住民だけが行うものではなく、だれでも参加する機会があることをしっかりとお知らせして、みんなの力を出し合って次世代に引き継ぎたいという思いを再確認しました。

第５章　目標の実現に向けた取組

2 回開いたワークショップと、1 回目の C ネット会議でお伝えした地域の課題と、今後の方向性をもとに、3 回目のワークショップでこれからの新川地区が目指すビジョンを 4 つ掲げ、2 回目の C ネット会議で正式に『新川まちづくりビジョン』が承認されました。
4 つのビジョンについて説明します。

☆第 1 のビジョンは『子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちづくり』です。

子どもがのびのびと健やかに成長でき、高齢者も生きがいをもって安心して暮らせるまちづくりを目指します。
今現在の新川地区において最も優先度の高い目標となります。

☆第 2 のビジョンは『安心・安全で災害に強いまちづくり』です。

防災・防犯・交通安全に関する取り組みを通して、子どもも高齢者も、健常者も障がい者もすべての地域住民の安全を守る、安心して暮らせるまちづくりを目指します。

☆第 3 のビジョンは『きれいで魅力あるまちづくり』です。

全国的に有名になりつつある『新川さくら並木』がある新川地区の魅力をこの先も保ち、そこに住む住民も環境を整備し、気持ちよく住めるまちづくりを目指して様々な活動に取り組みます。

☆第 4 のビジョンは『活気とうるおいのあるまちづくり』です。

地域のつながり、住民同士のつながりが希薄になりつつある今の時代に、再び活気を取り戻し、皆がそれぞれの得意分野でまちづくりに参加し、住民の心がうるおうまちづくりを目指します。

具体的に挙げられている活動は以下のものですが、この先協議会の役員に限らず、広く地域からアイディアを集めていきたいと考えています。

① 福まちのよろず相談室

② 地区会館図書コーナー新設

③ ほっとひと息　子育てカフェ

④ まちセン所長　出張茶話会

⑤ フードバンク　なんでも交換会

⑥ 地域防災訓練

⑦ クリーン散歩スタンプラリー

⑧ さくらいっぱい運動

⑨ ボランティアポイント

⑩ 新川の魅力発信（SNS）

⑪ 学生とコラボ音楽祭

などたくさんのアイディアが寄せられています。

⇦⇦　2021.12.02
第２回新川地区
Ｃネット会議の様子

第６章ビジョンの推進に向けて

平成28年のワークショップを引き継ぐ形で今年度５回のワークショップや意見交換を経て、これらのビジョンを作り上げることができました。このビジョンを今後の新川地区におけるまちづくりの指針として、オール新川で進めていきたいと思います。

しかしながら、役員だけで企画をしても実際に地域住民が興味を示さなければ、活動は実現できません。いかにしてみんなが参加したいと思うような魅力ある活動につなげていけるかが大切かと思います。役員のみならず地域住民から広く意見やアイディアを出していただき、小さなことから一歩ずつ進んでまいります。

将来この地の発展を担う、若い世代に少しでもいい形でバトンタッチできるよう地域一丸で取り組むまちづくりを目指します。

設立総会にお集まりいただいた新川まちづくり協議会のメンバー

新川まちづくり協議会　構成団体一覧

令和３年 12 月２日現在

新川さくら並木連合町内会(役員･単町会長)	新川地区スポーツ推進委員
新川第１町内会	新川中央体育振興会
新川第２町内会	新川スポーツ振興会
新川町内会	新川体育振興会
ビレッジハウス新川自治会	新川地区緑化推進協議会
新川地区社会福祉協議会	新川地区クリーンさっぽろ衛生推進員
新川地区民生・児童委員協議会	新川中央小学校
保護司会新川分区	新光小学校
北更正保護女性会新川分区	新川小学校
北区第３地域包括支援センター	新琴似南小学校
北区介護予防センター新川・新琴似西	新川中学校
新川地区青少年育成委員会	新川西中学校
新川中学校区青少年健全育成推進会	新川高校
新川西中学校区青少年健全育成推進会	札幌国際情報高校
新川児童会館	新川幼稚園
新川中央児童会館	そうせい幼稚園
新川地区子ども会育成連絡協議会	新川保育園
新川交通安全運動実践会	新川北保育園
北交通安全協会　新川支部	新川地区老人クラブ連絡協議会
新川交通安全母の会	親和会
新川防犯協会	むつみ会
新川中央地区防犯パトロール隊	福寿会
新川・新光交番地区少年補導員	西札平成会
北消防団　新川分団	新川さんよこ商工振興会
新川少年消防クラブ	新川地区統計調査員協議会
新川地区防火委員	新川さくら並木町内会加入 11 町内会

合計62団体

さくら並木をシンボルに人と地域がつながるまち

現在「新川」と呼ばれている地域は、屯田兵が苦労して開拓した後に定住した地域です。
現在では世帯数1万3千を超え、人口2万8千人の大きな町に発展しました。
元々は川の名前だった「新川」は、町名や通りの名前にもなっています。

新川という川

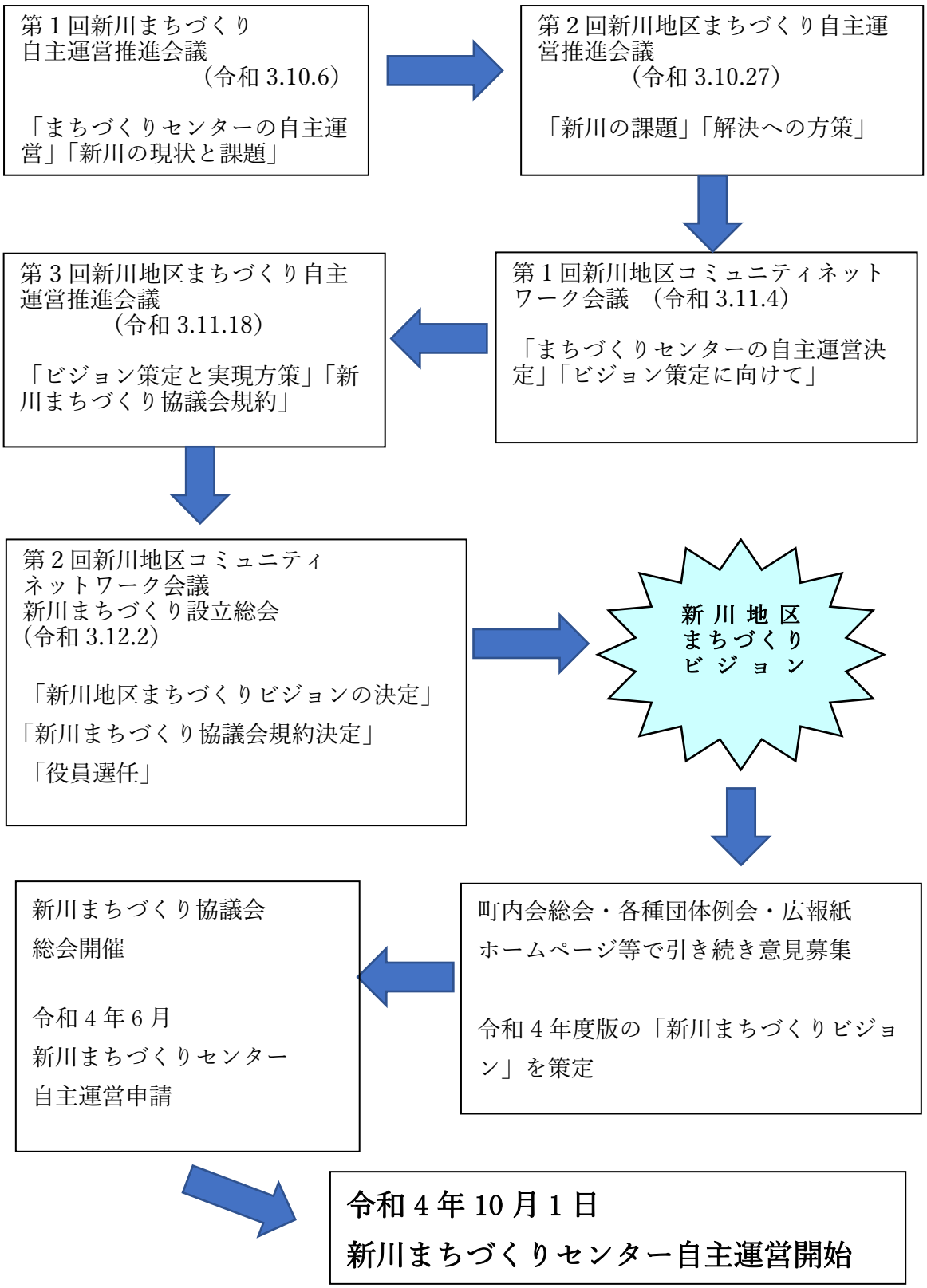
「新川」は明治20年頃に造られた延長12.5kmにわたる人工的な川です。小樽や銭函から荷物を運ぶとともに、付近を流れる発寒川などの洪水を防ぐために造られました。

新川のさくら並木は町内会で実現させた新川の誇りです。

平成9年、河川法の改正により、堤防への植樹が可能となり、悲願だったさくら並木造成事業が町内会を中心に始まりました。

地域住民や企業からは約2800万円もの寄付が集まり、十勝で育てられていた寒さに強い丈夫な桜の若木を購入し、新川の堤防に植樹しました。平成10年から3年間で755本、延長7.5kmに及ぶ植樹が完成し、現在では札幌有数の桜の名所となりました。

新川地区にある町内会

1	新川第1町内会	9	新川ポプラ町内会
2	新川第2町内会	10	新川東町内会
3	新川第3町内会	11	新川みどり町内会
4	新川第4町内会	12	ビレッジハウス新川自治会
5	新川第5町内会	13	新川町内会
6	新川第6町内会	14	新川西札幌町内会
7	新川中央第7町内会	15	新川公園町内会
8	新川第8町内会		

自主運営開始までの流れ